

第3期 瀬谷区地域福祉保健計画策定懇談会 第3回議事録

日時	平成27年1月29日(木) 午後2時から4時まで
場所	区役所5階大会議室A B
出席者	名和田氏、岡田氏、川口氏、辻村氏、山口氏、諸橋氏、網代氏、清水氏、福田氏、森谷氏、土居氏、岸本氏、杉野氏、米倉氏、大塚氏、伊藤氏、北井氏、中野氏、宮原氏、瀧澤氏、宮田
欠席者	奥津氏、高橋氏、永嶋氏、板坂
	<p>1. 第2回地域福祉保健計画懇談会の振り返り (資料1)</p> <p>事務局から第2回地域福祉保健計画懇談会の振り返りについて説明がされた。 事務局(藤澤課長)議事録について修正等があれば2月末までに事務局に連絡してほしい。</p> <p>2. 全域計画骨子案について (資料2、3)</p> <p>事務局から全域計画骨子案について説明がされた。</p> <p>&lt;質疑応答&gt;</p> <p>◆基本理念・基本目標・推進課題等の骨組みの案がでてきた。それらの相互関係図ができた段階である。今後、さらに意見を参考に具体的な計画案ができてくる。 資料3の下の概念図(P15)の推進課題は1～7が一体である。</p> <p>◆資料3の計画の構成について、全域計画は区役所、区社協、ケアプラザが取り組むとなっているが、区民はどうなっているのか。区民の理解がないと計画達成は難しい。区民の計画策定への参加を促す。全域計画においても地域の協力が必要だし、記述に盛り込まれているか。 推進課題と基本目標について、基本目標4において「個性を尊重する」ということで、第2期の計画では基本目標に掲げてあったが、今回は扱いが異なっている。区民には様々な方がいらっしゃる、それぞれが尊重されるべきとしていた。引き続き個性を尊重し、いろいろな立場の人(子ども、高齢の方、障害のある方)を尊重し計画を立て事業を行っていく必要がある。 事務局 1点目の区民の皆さんへの視点は指摘のようにベーシックに区民の力が必要なので検討させていただく。 2点目の個性を尊重するでは、1期2期で障害の理解や外国籍の方の理解を基本目標に掲げていたがずっと課題のままできており、目標を少しアクションプラン的に推進すべき課題とし、個性を尊重する具体的な取組ができたらと位置づけている。この辺は議論いただきたい。</p> <p>◆1点目の意見は地区計画と協働で進めるのが大前提なのでもっともであり、事務局も忘れていないはずなので工夫をしていただく。引き続き個性を尊重するについては、実際に推進していくために明確に推進課題に銘打ったらどうかということだがいかがか。</p>

事務局 基本目標3に「誰もが活動に参加する地域づくりに～」で「誰もが」とある。事務局としては、障害のある方も外国人の方も入っている思いで作っている。そこは理解しにくいようであれば検討したい。

◆「誰もが尊重され、誰もが活動に参加される」という表現をするのがよいのかと思った。若干議論いただきたい。

◆大切な議論だと思う。先生が言われた「個性と立場を尊重する」という言葉はよい。個性の尊重だけだとわかりにくいので、何か言葉を入れるとわかりやすくなる。障害は個性であると言われており、だから障害のある方もと言われているが、外国籍の方も含めると「立場」という言葉を入れるとわかりやすいと思った。

◆「個性」と「立場」と二つ違う言葉が出てきたが、「個性」は、「多様な生き方」や「生活のあり方」だと捉えている。プラスの個性もマイナスの個性もどちらも個性という言葉に含まれてくるので、もう少し詳細に書いた方がよいであろう。

◆推進課題4からは力強い表現になるが、基本目標として考えると「誰もが尊重され、誰もが活動に参加される」と書くのとよいのではないか。その上で推進課題に個性だけでは一般にはわかりにくいかもしれない。

◆「誰もが」の台詞がとてもこちよく、自分も含まれていると思いがちだが、この言葉に疎外感を感じるマイノリティーの方がいるかもしれないので、目標では「誰もが」と簡潔に表し、そこで、注釈として「子ども・障害・外国籍の方」、それから障害の中にも含まれるとはいえない男女共同参画で活動されているLGBT（性的少数者）の方々等の生き方を大切にされるための表現として何か「誰もが」に変わるわかりやすい表現はないかと考えている。

◆今は骨格だけなので今後できていくと説明が加わっていくだろう。その意味で、個性と立場が入っていれば良いかと思うが、先ほどの「多様性」と「生活のあり方」も捨てられないものがある。

◆基本目標はいろいろな形で加えていくと長くなってしまうので、皆さんが言わんとしていることは別の場所に注釈等で入れていけばよい。基本目標は短く端的に表すべきである。

推進課題にある「ネットワークの構築」について、実際に地域活動をしていて地域でのネットワークはよくわかるが、行政側、各機関にどれだけ地域に入ってもらえるかが課題だと思っている。つい最近高齢者の孤独死という残念な話があった。それは、隣の高齢者が住む家で2～3日雨戸が開いていないと民生委員に連絡があり、民生委員が対応して町内会長を呼んだ見に行った結果、亡くなっていた。そして警察に連絡し、警察がきたら、「民生委員とは何ですか」「地域ケアプラザとは何ですか」と聞いていた。これは、言語道断な話で警察は無知な人が集まっているのかとびっくりしたと報告を受けた。知らないとすればなんとかしなくてははいけない。

第二地区では駐在さんがいて地域の集まりに参加してくれている。警察署（交番）になるとなにもしてくれない。何年前には、瀬谷警察の地域安全課で地域の民生委員の定例会に顔を出して横の連携を図りたいととても良いことがあったが、その後一回も来ていない。その結果、今のような話になってしまっている。縦割り行政という批判もあるが、もっと連携を図らないと本当のネットワークにはならない。

◆普通は知っていると思うが、今のような話があるとすると課題はある。警察も普通は知っていると思うが、いずれにしろ課題があるということ。

◆「誰もが」と「個性」について教育の立場で話す。

以前、横浜の小学校で30年位前に人権問題について書かれたキャッチフレーズ「誰もが豊かに安心して」という言葉が教育長通知で作られた。差別の問題も外国籍の方も含めて「誰もが豊かに」としたが、学校教育の場でそのような取組をしていながらも地域の中ではそれが達成できておらず、未だに差別もある。

「個性の尊重」の「個性」は非常に曖昧。個性を伸ばす教育とよく言われるが個性とは何か。「この子はおしゃべり」「この子は落ち着かない」等、何でもかんでも個性でよいわけではなく、きちんとルールを守ること、きちんとやることをやった上で磨かれた上で個性が出てくると我々は判断する。この「個性」という言葉は非常に危険な言葉で、きちんと市民、区民として義務を果たしての個性でないと困る訳で、ここは慎重に考えるべき。

◆推進課題はこれから肉付けされると思うが、推進課題の「個性を尊重する」「担い手を育てる」の表現は別として私の中では繋がるが、「情報を共有する」はどこからきたものか説明が欲しい。

「情報の共有」とは、関係機関が情報を共有することなのか、共有も開示することなのか、収集することなのか等、色々な捉え方があると思う。

事務局　ダイレクトに繋がる意見はなかったが、地域でネットワークの構築や支えあいの仕組み作りをする中で情報が重要と考えており、事務局から課題提起させていただいている。ベシクに無くてはならないものだと考えて提示した。

◆今後、その下に具体的な取組や方針等の内容が出てくれば見えてくる。

項目として上がっていれば皆さん異論はないのではないかなと思う。

◆先ほど、個性はいろいろな考え方ができると話があったが、第2期計画では、障害のあることがその人の個性とし尊重することだったと思うので、それが皆様に伝わるような説明があるとよい。

一人ひとりが持っている「個性」と「立場」というのは主に子ども等を考えているが、弱い立場の子どもがしっかり計画の中でみてあげることが大事ではないか。

多くの子が朝食もとれずに学校に行っている。事情はいろいろあるだろうが、周りで見守り温かい手をさしのべることが大事だと思う。認知症の方も同様。

推進課題の表示については、第2期計画と比べて少しぶっきらぼうかなという感じがする。多くの区民に理解いただくとすればもう少し丁寧な表現が必要。

基本目標1の「向こう三軒両隣」は基本だと思うが、もう少し広い視野に立って見守りするようにしたらどうか。

エリアの中で災害時の安否確認、見守りができるか。顔の見える関係では班とか組とか小規模から自治会町内会となっているので考えて欲しい。

◆「ぶっきらぼう」と思われる点は、具体的な内容が出てくればかわってくると思う。

◆基本目標や理念は、基本なので文言だけ並べても意味がないのでこれでよい。

地区別でこの基本に肉付けして広げていくわけだからこれでよいと思う。

◆ここで意見を統一することは任務ではなく、事務局が考えることでよい。

向こう三軒両隣の表現は時代に合っているかは考えた方がよいかもしれない。今の横浜の住宅は向こう三軒両隣のような形態になっていないようであるので、そこは事務局で少し考えてもらいたい。

推進課題の文言も少し具体化していけば変わってくると思うので、次のテーマに移りたい。  
事務局 骨子は地区別計画の指針を示すにあたって作ったもので、全域計画の内容は次回以降検討していただく。骨子は骨子案とし、変更の余地ありとさせていただきます。

推進課題4～7は、事務局でも表現については疑問もあるので2月10日までに検討していきたい。その他の点は書き込むほど難しくなるということもあるが、2期計画との整合を図っていききたいので、個性等については基本目標1に定められており、しかも推進課題1に書いてあり、5年間のあるべき姿等、丁寧に書き込んであるのでそこに付いては、骨格を示した上で次回以降、意見をいただくことにしたい。

◆全域計画は、地区別計画の策定指針としてとり急ぎまとめた感があるので、今日の意見を踏まえて事務局に悩んでもらう。

### 3. 地区別計画策定指針について (資料4)

事務局から地区別計画策定指針について説明がされた。

#### <質疑応答>

事務局 3期の地区別計画策定にあたり、平成27年2月10日に第2回地区別計画推進研修会があり、その後地区別に計画の話し合いをしていただきたい。地区別計画は平成27年11月までに完成していただき、12月のこの策定懇談会の場で各地区の計画の報告をさせていただく。28年3月に地域福祉保健計画のシンポジウムを開催し計画全体を発表させていただく。

◆この冊子は懇談会名も記載されているので皆さんの納得が必要。

第2期計画で、横浜市内の全て234地区で地区別計画ができた。これを地域づくりに実質的に活かすとは、例えば、港南区地区別計画をみると今その地区で何ができているかが書かれている。都筑区も1期は同様であった。計画として課題があって行動計画が書かれているものではないが、地域が今、何ができるか議論し確認したという意味では重要なことでもある。それを踏まえて第3期で行動計画を持つことが大事であると考えている。

瀬谷はその先をいっており、第二期で行動計画まで策定しているので、今度はどういう水準にしていくかということでこのような指針を作っている。策定指針を作るのは横浜市でも瀬谷区は始めてではないかという話もあったが、今までの話し合いの中で必要になってきたという必然はあるのだと思う。

2月10日はこれを使って説明するので議論をお願いしたい。

#### <質疑応答>

◆P9基本目標2「健康で長寿なまちづくり」で横浜市長が「健康長寿日本一の市にする」と言い「ウォーキングポイント事業」や福祉保健の問題やいろいろなスポーツや健康診断等、横浜市全体で取り組んでいる。

保活としては、「パークで筋トレ運動」ということで、瀬谷区内6カ所で健康器具を使って行っている。ウォーキングポイント事業は11月から始めて3月までに5万人の予定が既に10万

人近くになっている。5年間で30万人の目標が5ヶ月で3分の1を達成している。これは、横浜市全体で取り組んでいるので、是非、基本目標2でそれに触れて欲しい

◆これは、まだ策定指針である。基本目標3つのうち1つが健康づくりになっており、計画の名称は地域福祉保健計画だが、健康づくりは柱の一つになっている。

◆P6方向性・視点②“地域全体で取り組む“のところで「多くの方が関わることができるような体制づくりを整える」「地域全体で協力して取り組む必要がある」「若い人の出番を作る」「若い世代の意見を聞く場を設ける」の文言は、大賛成であるが、これを実行に移す場合について各12地区で既にやられている具体的な取組の例示が必要になってくるのではないかと思う。

第1期計画の時は、多くの区民が広い場所に集まって意見を聞く場を最低1回は作ったので、そのような方法で第2地区や第4地区を出してみたらいかか。

◆ここに12地区がそれぞれ1回ずつ例が出ているが、それで瀬谷区の例示として十分な紹介になっているかはわからない。

◆「直接的には福祉活動ではないと思われる取組」「地域福祉的な視点」「地域福祉の取組を幅広い福祉としてとらえた場合」という3つの文言があるが、ニュアンスとしてはわかるが、この3つの表現がどのように絡んでくるのか。ある意味では、生活していく中での不安も含めてそれらがニーズや要求として出てきていくつか整理がされ生活課題となる。なので、このような表現でよいのだが、もうひとつ、住民の自主的な活動の側面を加えた方がわかりやすくなるのではないか。

◆こういう案ができたことは凄いと知っている。

中身の話の前に、25年の区民意識調査と地福計画づくりがもう少しリンクすると良いと思う。文章の中に意識調査の結果も入ってはいるが、一步進めて、次回の区民意識調査で「地域福祉保健計画を知っているか」「地域で取り組んでいるか」等を聞き取ってもらえると良い。このような計画を作った時、項目がどこまで到達したのか把握が必要で、その時にそれぞれ地域がよくできたと評価するのも大事だが、区をあげた取組なので、上手く浸透するために、区で行う意識調査にも反映しつつサイクルを示した方が張合いもあり納得してもらえないのではないか。

◆区民意識調査、市民意識調査は各課が設問を入れて欲しいと言ってくる。

PDCAサイクル等、各地区が自分を評価する段階で必要であれば、区政推進課に「このような設問を入れてくれ」という必要が出て来る。

◆まずは、ようやく全域と地区計画がつながってきた。そして、全地区がばらばらでなく同じ方向に向かって計画が立てられるようになったと感無量である。

福祉という言葉をいろいろな意味合いで使っており、気になるのは、地域福祉計画はまちづくり計画であるとはっきり謳った方がよいのではないか。何故なら、まだまだ福祉は社協がやればよいと思われがちである。今、ここで福祉をいろいろな言い方で言っているが、「福祉計画はまちづくり計画である」としっかり謳った方がよいのではないか。

今度の研修会では、連合会長も地区社協の方も皆来るので、お客さんで聞くのではなく、参加者が生活に直結したものであることがわかる説明の方がよい。そうすると、福祉の捉え方がいろいろ書かなくても済む。

◆QAの表現を少し変えればよいか。

◆P5の図式を見るとそれがわかるが、福祉の言葉で説明せずに「まちづくり」という言葉を使った方がより生きてくるのではないか。

◆NPO 法人市民セクターよこはま自主事業では、地域づくり大学校を開設して4年になる。市域でやっていたが、地域で学んだ方々が市でやるより町でやりたい、町の課題は区ごとで違うということで、H27から全区でやることになった。

先日、卒業式であいさつしたが、福祉と名乗らなくても受講生は課題解決を学びにきたが、仲間作りもするし、他地区を調べたりしている。“農”もやりたいと思いつながらできなかったのが、町内会館の裏のいつも雑草取りに人を集めていた所を農地に変え結束が高まったよい事例もある。その方達は福祉をやろうと思って集まったのではなく、住んでいるところをよりよくしたいという気持ちであった。

結果として福祉だったよね。と4ページの図では言いたい意図はよくわかるが、もう少し垣根を取り払って福祉の言葉を砕けさせて表現しても良いのではないか。

◆策定推進にあたって、「他所の地区を学びに行く」「ワークショップを開催する」等というような策定する時の手法のようなものは書かないのか。

事務局 具体的なやり方を示すと「皆、そうしよう」と動かれても反発もあるかと思っている。

「このようなやり方もあります」程度にしたい。

◆P6「全体で取り組む」の部分で、懇談会の意見をまとめたのはわかるが、その関連する地区の具体的な取り組みとなると掲載されていない地区は取り組んでいないのかと思われてしまう。それぞれの地区での取り組みを載せると紙面が多くなってしまうので特徴的な区のみを挙げたのだと思うが、どの地区でも取り組んでいるのでうまく表示して欲しい。それぞれの地区でいろいろな取組をしているので、そこは上手に書いてもらいたい。地区ごとに活動を取り上げる方法もある、

◆12地区が必ず1回登場するという載せ方でやっている。

◆自分の中でもまとまっていないが、基本目標3「誰も参加する地域づくり」障害者を受け入れる風土ができていのかどうか。ここで「誰もが活動に参加する」の参加する対象者は、もしかしたら健常者のことなのかと思う。また、「幅広い世代」も健常者をイメージしているのではないか。

もう1点P4の方向性・視点①「地域福祉を幅広い福祉として捉える」には賛成だが、中段のところで「直接的には福祉的活動ではないと思われる取組が生活課題の解決につながっていることもあります。」と言いついてしまっており、Q&Aでも「福祉に直結していない活動がどのように地域福祉の取組となるのですかと、同じことを言っているのだから、上の「生活課題につながっていることもあります。(QA1参照)」とすれば、関連性が出て来るのではないか。

祭り等が地域の方に良い影響を与えているとした方がよい。Qの「福祉に直結していない活動(文化づくりやお祭り)」は、そのような活動が地域の方々の生活課題に良い影響を及ぼしています。と替えた方がすんなり落ちていくと思う。

◆P4~5を何とかして欲しいという意見が多いような気がする。結果としてこのままになるかもしれないが検討してもらいたい。

◆「子どもの姿」が明記されている文章がないことがとても気になった。あらゆる世代の参加の

中に「子ども」を主語にした主体が欲しいと感じた。

5 ページ 子どもの姿が見える視点を入れて欲しい。常に誰かに見守られている、ボランティアに参加している中高生という形で、子どもが主体の書き方をお願いしたい。ここだけでなく「子ども」に関して全体に薄い。

まちづくりという話もあったが、少子化、人口減少なので、是非、子どもの姿が地域福祉保健計画の地区計画の中に子どもが主人公の表現が何か所かあると嬉しい。

事務局 P5 上の部分で子どもが主役の表現とは、どういう表現がよいか。

プレイパークもあるが、場のセッティングは大人がやっているのも難しい。

◆港南区では、中学生が職場にインタビューに行っている。瀬谷区はやっていない。

◆そのようなものがあつたらよいとずっと思っていた。

仕掛けは大人だが、主体の取組は子どもというものは、例えばお祭りに子どもが何かをするという“地区の祭り”等、子どもも出て行っているが、大人からの視点で見ている。小学校では推進されていると思うので、小学校では子ども達に何を働きかけているのか聞いてみるとよい。

◆小中学校で子どもが考えることが行われていることもあるかもしれない。

◆地区の小中学校では、子どもが自分達をしっかりと見直そうと、いいところ・問題箇所をまち歩きでまとめたり、地域の中で役に立ちたいということで菊づくりに招待したりしてくれている。

また、子どもの防災活動では、子どもが地域の役に立つ子どもになって欲しいということで防災拠点の活動では食料品の配布を手伝ったり、簡易ベッドを一緒に作ったり等、先生も子ども自身も意識が高くなっている。

◆今、言われたことは学習の中で関わることはあるが、純粋に地域の中で子どもが主体というところでないかもしれない。組織の中では、学地連で「ごみ清掃活動」を地域で行うなどやられている。子ども達が自主的にというのは思いつかないが、組織があり、活動の一環の中でボランティア活動等、何かの中で関わるというのは多い。

◆P5の絵で、「様々な取組」の中で“運動会”“お祭り”に子どもが頭に浮かぶ。

「子どもが主体」というより、「子どもと一緒に」になって地域が何かをやっていくのも重要だと思う。「様々な取組」を見た時にそれが浮かんでくるのでこれでよいのではないか。なかなか子どもが主体といっても、子ども会ですら大人が指導しているのが実態。その中で子どもが地域で育っていき、やがては地域を担う人になればよいので、これでよいと思う。見た時、子どもの顔が浮かんで来ればよいと思う。

◆P5ではなく、別のところで子どもが主語として明示すべきということかと思う。

◆主任児童委員の立場でいうと、あらゆる世代の参加が盛り込まれているが、P5イメージ図をみても高齢、地域の活動で進んでいる分野が中心となっている。

第1期、第2期の成果を見ても、「見守りの体制作りが進んだ」「サロン等の地域交流の場が進んだ」というが、どちらもどちらかという高齢者のことである。「第2期の見守り・支え合いの場が進んだ」というのも、うちの地区では、どちらかという障害や高齢に力を入れている。

子育て世代が地域につながっていくことが話として今まで出ていた。地域に降りてきたとき

に、担っている人が子育て世代から離れている人が多い。

だから、子育て世代の居場所づくりを地域がする等、地域でその世代とつながろうということがわかるようなものが欲しいと思った。

美化活動やお祭り等は福祉に関係ない活動という記載だが、私は福祉の活動だと思ってやってきた。この表現を繰り返してしまうと「これは福祉に直結しない活動だとすり込みができてしまいそう。やはり、「まちづくりの全てが」等、すべての活動が地福に直結する「よいまちを作る」という形の方がよいのではないか。できれば否定的な言葉を減らしたい。

- ◆音楽活動は、子どもが中心で5年位やっているが、幼稚園から中学校までの子どもが中心になって白石高校を使い1000人集まる。幼稚園の子からお年寄りまで来て、感銘を受けて帰る取組がある。

先週の土曜日には、瀬谷小、瀬谷中、瀬谷西高校のバンドクラブが音楽交換会を行った。地域の人達もたくさん来て、心が洗われるものがある。

「まちづくり」「こころを育てる取組」を実際やっているなので、それを広げていくのもよいと思う。

- ◆7ページに若い人が主語になっているところが結構あるので、この辺りは重要だと思う。「誰もが参加する」という時に、この「誰かに」の中に浮かばないものがあれば主語に出す必要があるだろう。

- ◆瀬谷区の社協としていろいろな取組の中で、貧困の連鎖を断ち切るということで生活保護を受けている子に隼人高校の生徒が阿久和地区の小学生の宿題をみるなどの活動を行っている。

港北区は慶応大学、保土ヶ谷区は横浜国大、戸塚区では明治学院大学があり、学生が学習支援に取り組んでいる。

高校生たちが地域に入って学習支援をするのはすばらしいこと。

貧困を断ち切るというのも地福の中に入ると良い。ここに例示されると他の地域でも広まるのではないかという思いがある。

- ◆子どもが主語の話がでてきているので、是非、出してもらえればと思う。

- ◆P5最後の枠の中が「自殺防止」「いじめ防止」「非行防止」「閉じこもり予防」等、マイナスイメージが強く、ずっと取り組んできた「健康長寿」と「災害」は実績があるのでプラスイメージで書かれているが、ここに「子どもの声が聞こえる地域」「地域活動への子どもの参加」等、プラスのイメージの言葉を書くべきではないか。

現実には「子どもと大人が一緒にやっていて、このような効果があり、それが進むと子どもの積極的な地域参加がある」というイメージに変えるだけで、子どもの姿が出て、解決が出来ると思う。

また、若い人のところは、「子どもの意見を取り入れる余地を持っている」ことを子どもが主語でここに入れば、具体的なイメージが広がるのではないか。

事務局 「生活課題への解決へ」は、確かにネガティブなものの解決ばかりになっている。

「取組から生まれる様々な効果」のところに「子どもが過ごせる地域に愛着が持てる」等を入れて、その次に「生活課題の解決へ」のところで「子どもの声が聞こえるまち」でつないでい



く等、少し言葉で補っていく。

- ◆素晴らしい助言をいただいたので少し改訂して2月10日に望みたい。

#### 4. 地域福祉保健計画の愛称について (資料5)

事務局から地域福祉保健計画の愛称について説明がされた。

##### <質疑応答>

- ◆愛称は前回も少し議論になったが、事務局の問いかけに何か意見はあるか。  
副題だと良いかもしれない。
- ◆先程から議論されている「福祉」や「誰もが参加」などの言葉が副題の中で「いろいろな人が関わっている」「福祉保健計画」ということがもう少しわかるように言葉を変えていけば、皆さん意見も組み入れられ、理解が進むものではないかと思う。
- ◆次回3月5日には、策定懇談会の皆さんに一球入魂で考えていただくことにしたい。

#### 5. その他

事務局から前回の出された意見をまとめた全域計画について説明がされた。

事務局 高齢障害支援課から 在宅医療について参考に情報提供である。

「瀬谷在宅医療相談室」では、横浜市の市の医師会と協働で、医療と介護の橋渡しをする「在宅医療連携拠点」を進めていくということで、先に発表された中期4カ年計画でも、4年間、2017年度までに全区設置の目標も出ている。

今年度、瀬谷区を含めて新たに10区開設。場所は瀬谷区では1丁目の医師会館の中に設置。医療相談室ということで看護師を2名配置して医療機関や介護事業者等から相談を受けることになっている。一般区民の方は、今まで通り区役所やケアプラザを利用いただき、そこからの相談という形となる。

- ◆「瀬谷在宅医療相談室」は利用者＝区民の方から直接相談を受けるところではない。体制としては、今の団塊の世代の人達が旅立たれる時期になると病院のベッドが足りなくなるので、家で亡くなる方が多くなっていく。家で看取らないと成り立たない状態になっていく。病院から在宅に戻りたいが「かかりつけ医がない」「体制が整っていない」ので戻れない方が多くいるので、主なイメージとしては、「病院に入院中の方や通院していても家で介護したい」「往診の先生を付けて欲しい」等、病院の中に調整者＝ソーシャルワーカーがいるが、その方達からここに相談を受けて、区の医師会や周りで介護事業の方と協力して地域で体制を整えて受け入れていく流れである。

事務局 来年度の日程表の提出のお願い。

次回から全域計画に入っていくので、次回の会議でグルインの結果を示し、それが反映できているかみていただきたい。

次回日程 3月5日(木) 15時~17時 皆さんには、是非、これは、という渾身の一作の副題を考えて来ていただきたい。「みんなが」「まちづくり」「こどもから高齢者までみんなが」が表せるようなイメージで、皆さんの意見を合わせてもっとよいアイデアができるかもしれないのでよろしくお願いします。

以上

次回	平成27年3月5日（木） 15時～17時 瀬谷区役所5階大会議室AB	
資料	資料1	第2回 瀬谷区地域福祉保健計画策定懇談会報告書・議事録
	資料2	第1回・第2回懇談会でいただいたご意見のまとめ
	資料3	第3期瀬谷区地域福祉保健計画 全域計画骨子について
	資料4	地区別計画策定にあたって（地区別計画策定指針）
	資料5	第3期地域福祉保健計画の愛称について